

# SEVEN HILLS

The magazine for high net worth individuals

セブンヒルズ  
世界を舞台に活躍する  
資産家のための  
マネー&カルチャー誌

8

AUGUST 2008 Vol.042

大人の恋、プレミアム婚  
洋上の悦楽 ラグジュアリークルーズ  
ニッポンのアートコレクター

特集 真のラグジュアリーを求めて  
OAHU, MAUI, KAUAI

SEVENHILLS 8

特集 真のラグジュアリーを求めて

2008 Vol.042

e-MARKETING  
The Division of Sanreits

SEVENHILLS 8

セブンヒルズ 第四十二号 二〇〇八年六月二十五日発行 毎月一回(二十五日発行) 編集・発行人 白井有文 編集長 栗原伸介 発行(株)イーマーケティング 〒107-0062 東京都港区南青山1-10-2 南青山Aビル2F TEL:03-5772-3341

定価 2,100円(税込)

ISBN978-4-903658-20-9 C0033 ¥2000E

# Guy Bedarida

ガイ・ベダリダ

JOHN HARDY ヘッド・デザイナー

## 不変、そして寛容なる美を求めて

かつてインドネシア・バリ島の国王は祭事用の宝飾類を作らせるためにメタルミスと呼ばれる職人たちを側に住ませ、一つの集落を形成させていたと云われている。そのスタイルを現在に蘇らせたデザイナー、ジョン・ハーディー氏はジュエリーブランド、「JOHN HARDY」を立ち上げ、ウブドの奥地にヴィレッジとして完結するアトリエを持っている。その“理想郷”でデザインの指揮を執るのが、ヴァンクリーフ&アーペルのヘッド・デザイナーとして活躍したガイ・ベダリダ氏だ。創作の哲学、そして素材においても be natural を徹底しているジュエリーづくり、そして N.Y.、パリ、バンコクを拠点に世界各地を飛び回るガイ氏のライフスタイルについて、彼が「クリエイションの最先端」と称する京都で聞いた。

矢幡聡子/インタビュー 福尾行洋/写真 SEVEN HILLS/文  
Interview by Satoko Yahata Photographs by Yukihiko Fukuo Text by SEVEN HILLS

「ダラスから日本へ到着されたばかりだと聞いています。N.Y.、バンコク、パリに邸宅を持ち、常にアグレッシブに地球を駆け巡っている印象を受けますが、訪れる様々な地でデザイナーのインスピレーションも生まれるのでしょうか。」

世界中を駆け巡るという点は私たちに共通しますよね(笑)。日本以外の国でもずいぶんとお会いしている記憶があります。おっしゃるとおり、世界中のあらゆる土地の文化や風土からデザインのヒントをもらっています。アトリエのあるパリはそれを象徴的に表している場所ではないかと思っています。東洋と西洋の美が混ざり合い、モダンでありクラシカル、またシルバリーやガラス、木材や石といった多種多様なマテリアルを組み合わせることで可能性が広がっているのです。デザインを学んだローマ、パリ、ニューヨーク。現在アトリエのあるパリ、そして休暇で訪れる世界各地の要素を取り入れることで不思議とトレンドに偏らない、ジュエリーが出来上がるのです。

「アトリエのあるパリ、そしてバンコクにも素晴らしいヴィラをお持ちだと聞いています。あなたにとって、東南アジアの国々の一番の魅力は何なのでしょう。」

よう。

「原色」でしょうか。亜熱帯地域ならではの自然の生命力、パワーを強く感じ、それが創作に結びついていくのです。光すらも濃く感じられ、様々なイマジネーションを私に与えてくれます。もう一つは人々のホスピタリティでしょう。彼らはとてもたおやかです。ものごとに対して、寛容であり、それはデザイン、制作にも欠かせないことなのです。あらゆるアイデアを柔軟に取り入れ、斬新なものを作る才能に長けているのではないかと思います。」

「ローマのヨーロッパ・インスティテュート・オブ・デザイン・コミュニケーションで学ばれたのですよね。またパリではヴァンドーム広場のデザインを手がけたとも聞いています。あなたのデザインのルーツについて、教えてください。」

父がフランスのパリ、母がイタリアのフィレンツェ出身で、両親とも芸術的感性が高く、幼い頃からアートやデザインが常に生活の一部として存在していました。ローマ、そしてパリでは、西洋的な美の本質を、そしてニューヨークのヴァンクリーフ&アーペルではジュエリーデザインの基礎を学び、ヘッド・デザイナーとしてさまざまな挑



ガイ・ベダリダ  
1964年、イタリア・ローマで、フランス人の父とイタリア人の母の間に生まれる。名門、ヨーロッパ・インスティテュート・オブ・デザイン・コミュニケーションで学び、卒業後はフランスパリで活躍。ニューヨークのヴァンクリーフ&アーペルのヘッド・デザイナーに抜擢され、革新的なデザインで人気を呼んだ。1999年にJOHN HARDYと出会い、ブランドの代表的なジュエリーデザインを手がけ、ヘッド・デザイナーに。またクリエイティブディレクターとしても活躍している



光すらも濃く感じられる  
「原色」の地はイマジネーションの宝庫

戦をさせてもらいました。本質や基礎を学ぶことはとても大切で、それがなければ新しいクリエイションはあり得ないと思っています。ジョン・ハーディーと出会い、どこにもない新しいデザインを生み出したのは、この経験があったからだと思っています。

3年前、ウブドのアトリエに伺った際、竹編みと泥で作った建築物や、自給自足を中心としたスタッフの生活に驚かされました。ジョン・ハーディーの徹底した *be natural* の思考は、デザインにも現れているのです。かつてバリの国王は、宝石職人、メタルミスの集団を集落として養っていました。そこでは自然の美からインスピレーションを受けた、非常に素晴らしいジュエリーが制作されていたのです。いらっしゃって頂き既にご存知だと思いますが、人工物でできる限り排除したウブドのアトリエは、約600名いる私たちクリエイターにとってはまさに「理想郷」といえるでしょう。敷地内の田畑で採れた野菜、飼っている家畜で食事を用意し、

使用を避けられないIT関連のケーブルなども木製の柱に埋め込み、電球も直接目に付かない場所に設置するなどしています。そこで生み出されるジュエリーも自ずと100%の天然素材にこだわり、バリ原産のパームツリーやレザー、天然の磁石や蜜蝋を使用しています。今年のコレクションには、天然のバンブーを使用した新しいコレクションが加わる予定です。*be natural* なものに囲まれ、導き出したのは *be natural* なのが美しいということ。デザインにも自然の息吹が感じられるものを目指しているのです。

今回で3度目の京都となりますが、印象をお聞かせください。また日本のジュエリーマーケットはどのように変化していると思われませんか。あいにくの雨ですが、緑がとても美しく、石畳や古い寺院など、かえって前衛的な印象を受けます。京都と呼ばれることが多いようですが、現在でもなお外国人ばかりでなく、日本人をも魅了し続けているのはやはり、



インドネシアのパティックを彷彿とさせる JOHN HARDY のジュエリー。もちろん一つ一つ手作業で製作され、大胆かつ秀逸な細工を持つ。レオナルド・ディカプリオやヒラリー・スワンク、ケイト・ブランシェットやナタリー・ポートマン、リブ・タイラーら、多くのハリウッドスターがブランドの哲学に共鳴し、JOHN HARDY コレクションを身に付けているという



ジュエリー以外にも石や竹、シルバーなど、人工的な素材を使用しないインテリア用品も製作している。天然素材のため、同じものは2つと存在しない



本誌でも以前ご紹介したインドネシア・バリ島にある JOHN HARDY 「ヴィレッジ」の中にあるショールーム。人工物をこごとく排した建築に圧巻

新しいものを拒まず、受け入れる許容があるからなのでしょう。数多くのパティックホテルや、世界で唯一のマンガミュージアムも京都にありますよね。全ての伝統的なものもかつては前衛的であり、世の中にインパクトを与えていたはず。つまり数多くの伝統が息づく京都という街は、昔も今も新しい潮流を生み出す文化的パワーが集まる場所なのではないでしょうか。

また日本の方はジュエリーに関わらず、異素材を組み合わせたことが非常に上手いと思うのです。多くのブランドが日本を主要市場として位置付けていますが、日本市場はそれに応えています。文化的な成熟を迎え、個々の嗜好が多様化している日本は、ジュエリーに関わらず様々な分野で可能性が広がっていると思います。

「プライベートもきつと美しいものに囲まれて生活されているらっしゃるのですね。どのようなコレクションをお持ちなのですか。」

「アンティークというよりも、モダンとクラシカルなものが融

合しているものに惹かれます。そしてどこかにナチュラルな素材を使用し、偏りすぎないリミックスなテイストが好きですね。また中国や韓国、そして日本の東アジアの現代アートにとっても興味があります。日本にも素晴らしいアーティストがいると聞いています。日本のクリエイションの最先端である京都、そして現代アートの聖地、東京に滞

在できるということ、デザイナーのヒントが多く得ることができるとは思いません、非常に楽しみにしています。

「滞在を楽しみながら、いろいろヒントを見つけてみてください。また素晴らしいジュエリーが出来上がるのを楽しみにしております。本日はありがとうございました。」



矢幡 聡子 やはた・さとこ

CORE SLTD. 代表取締役。聖心女子学院卒業後、スイス、フランスへ留学。欧州国連本部、小谷正一事務所を経て CORE SLTD. を設立。主な仕事は、国際文化交流事業の企画運営。PR コンサルタント、衛星テレビのプロデューサー、エッセイストとしても活躍。国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 国内委員会理事



同じ敷地内にあるデザインセンターで打ち合わせをするガイ氏

京都は昔も今も、新しい潮流を生み出す  
文化的パワーが集まる場所